

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2015

2月

No.116

特集

P2・3

災害が発生!

～その時どう動く～

宍粟市災害ボランティアセンター
運営模擬訓練レポート



ひ孫と
いっしょ

シリーズ115

千種町 七野

はる な しげ よ

春名 繁代さん(91歳)

まい か

○舞花ちゃん(7歳)

さく や

○咲耶ちゃん(5歳)

はる な もと き ゆう こ

春名 元紀さん・裕子さん

■長女・二女

災害が発生！その時どう動く？

宍粟市災害ボランティアセンター

運営模擬訓練レポート



ボランティアの活動先を調整し、説明するスタッフ

災害時に社協が取り組む使命のひとつに「災害ボランティアセンター（以下災害ＶＣ）を設置し、被災された方々と支援にきたボランティアをつなぐ役割があります。」
平成21年8月10日、宍粟市に大きな被害をもたらした台風9号豪雨災害の経験と教訓を生かすためにも、社協では定期的な訓練とマニュアルの確認や見直しを行っています。
今月号では1月25日（日）に本会が実施した模擬訓練をレポートし、災害ＶＣの運営について考えます。

豪雨水害を想定し

訓練を実施

今回の訓練では、宍粟市一宮町を中心に大雨による豪雨水害が発生したことを想定して、本会本部のある一宮保健福祉センターに災害ＶＣを設置し、本会の職員をはじめ67人が模擬訓練に参加しました。

災害ＶＣは、被災者の困りごとやニーズの把握、各地から駆け付けたボランティア活動

者の受付、そしてそれらを調整（マッチング）し、支援が必要な方へボランティアをつなぎ送り出す作業を行います。

訓練は、本会の「災害救援ボランティア活動支援マニュアル」に沿って役割分担を行い、訓練がより実践的なものになるように、被災者・ボランティア役を本会理事や一般参加者等が担いました。

参加者はそれぞれの立場になり役割を演じ、中にはクレーム

やトラブルも想定し、災害ＶＣ運営に必要な対応についてスタッフを考え動きました。

地元自治会や

養成講座受講生も参加

当日は、地元閏賀自治会の協力をいただき、自治会長から「100人分の炊き出し」の要請、そして民生委員や福祉委員からは「ひとり暮らし高齢者が被災された」などの相談、また現地調査として同自治会のお宅を被災者宅として訪問し、被害状況や困りごとの聞きとり調査など実践的な訓練を行いました。

また、昨年9月、本会で初めて企画した災害ボランティア養成講座（全3回）の受講生もこの訓練に参加しました。受講生は被災地に駆け付けたボランティア役として、また運営スタッフとして職員と共に災害ＶＣ運営の中核となるニーズ受付班（住民相談）、マッチング班（活動調整）、総務班（情報総括）で、それぞれ訓練に取り組みました。

災害ボランティアセンターの役割

マッチング(活動調整)



被災者からのニーズを確認し現地に行くボランティアの調整をします

ニーズ受付(相談受付)



被災者からの声を聞き、被害状況や支援が必要かを把握します

ボランティア受付



被災地に駆け付けたボランティアを受け付けます

オリエンテーション(注意事項説明)



活動先の情報や注意点をお伝えし安全に活動できるよう送り出します

総務(情報総括)



災害VC運営の要。全体の取りまとめや情報収集、発信を行います

炊き出し



今回は配食調理ボランティアさんの協力を得て、100人分のおにぎりや豚汁を要請時間内に作りました

社協が持つ機能を 発揮できるように

訓練終了後、各班に分かれ振り返りを行いました。

〈課題・感想〉一部抜粋

○ニーズ受付、ボランティア受付等で使用する様式が記入しにくい。

○各班の配置場所。来所された方がわかりやすいように。

○各班の連携が大切。相談したらたらい回しにされた。

○緊急の場合はその場で判断を迫られるケースもある。報、連絡(ほう・れん・そく)の徹底。
○活動先が決まらず待機しているボランティアへのフォローが必要。

○市外から来るボランティアが多いため、一宮の地名が読めない。フリガナ等の工夫。etc
たくさんさんの課題や気付きがありました。これ以外にも「**スタッフの対応が親切だった**」「**被災者の気持ちを第一に考えてくれた**」などのご意見もいただきました。

本会ではこの訓練での気づきを基に、災害VCを運営するベースとなる災害救援ボラン

ティアマニュアルの改訂や諸様式の見直し、救援機材の整備を行い、災害時に社協が持つ持っている力が発揮できるよう準備していきます。(本部 田中祥仁)



災害VC運営訓練に参加しました
稲沢穂積さん
山崎町 春安

昨年の夏、広島で起こった土砂崩れはとても衝撃的でした。

今まで災害ボランティアはテレビでは見たことがありましたが、実際に行ったことがなく、養成講座があると知り受講しました。自分が高齢者世帯は心配で、自分にも何かお手伝いできることはないだろうかという思いでした。

講座、訓練に参加して感じたのは、やはり被災者の想いを聞く大切さ、そして災害VCを運営する大変さもわかり、改めて日ごろからの訓練が大切だと実感しました。

やさしさ

みんなが集まる交流の場を!

東鹿沢ふれあいサロン

東鹿沢自治会には、公民館など住民が集まる拠点がなく、自治会の行事や交流が難しいという地域の事情があります。

そんな中「何とか自治会で交流の場が持てないか」と、自治会役員と福祉委員で協議を重ね、近隣の穴栗防災センターを会場に決めて、ふれあいサロン開催に向けた準備が行われました。

1月18日(日)、防災センターで初めてのサロンが行われ、子どもからお年寄りまで60人が参加し、茶話会や合唱、クイズでにぎやかなひと時となりました。

また、若い世代の親子が自己紹介をして顔を合わせられる機会になり「6年生になるお兄ちゃん、4月からよろしくね」と、この春に小学校へ入学する子らとの顔合わせも行われました。



合唱しながら握手やバンザイ。小さな子どもたちが元気に走り回り会場からは楽しい笑い声(穴栗防災センター和室)

「みんなが楽しみながらお互いの顔が分かる関係づくりの場にしていきたい」と、自治会長の嶋村誠さん。

今後は、暮らしに役立つ勉強会も開催したいと意欲も十分。今までになかった「住民同士の交流の場づくり」を、社協も応援していきます。

(山崎支部 森井裕矢)

いのちのみや

一人の100歩よりみんなの一步で

あこがれ千町の会

千町は、一宮町の北部にある高齢化・過疎化が進む集落です。

1月11日(日)、とんど祭りが行われ、42人が参加しました。

野菜や鴨肉を持ちこより「千町鍋」を囲んで、今年初めての楽しい行事となりました。

同地区は、7年前

に兵庫県が進める小規模集落元気作戦のモデル集落に選ばれたことをきっかけに「あこがれ千町の会」が発足し、地元と都市住民が交流し村おこしをされています。

休耕田を活用した野菜づくりを行い、都市での販売や千町の地域行事を通して、つながりを深めています。

「現状をただ憂うのでなく、一歩ずつ半歩ずつでもいい、今できることをしたい」と同会会長の藤原拓美さん。

都市住民と力を合わせ、一つひとつの作業を助けあうことで、顔を合やす機会ができ、日常的な支えあいが増えていきます。

社協では、千町の取り組みが「だれもが安心していきいきと暮らせる地域づくり」につながるよう応援していきます。

(本部・一宮支部 三宅あゆみ)



「みんなで頑張るから、村もわしらも元気をもらえるで!」(上千町集会所)

は
が

姿が見えたらひと安心

「にこにこクラブ」の活動

波賀支部の配食ボランティア「にこにこクラブ」は25人のグループです。

1月23日（金）、メイプル福祉センターに同クラブ6人のメンバーが集まりました。誰がどこに配達するのかを決める相談から活動が始まります。

「この家はいつも裏口から入るんですよ」とメンバー同士で情報交換を行ってから出発します。

この日は、波賀町最北部の戸倉・道谷の配食を担当する大前保子さんに同行しました。中継地点である日ノ原でお弁当を受け取り、利用者のお宅を訪問する中、雪が深が残る中、雪かき作業の真っ最中でした。



「この雪の量、すごいやろ」寒い中でもボランティアさんとの会話はほっとするひと時に（戸倉自治会）

「寒いではちばちしなよ」とお弁当を手渡した大前さんの声かけに、「いつもみんながのぞいてくれるんや」と笑顔の返事が返ってきました。配食後には、「今日は姿が見えたで安心できたわ」と報告し、活動を終了されました。

（波賀支部 平有利菜）

福祉のまちづくりを考える場

千種地域福祉推進委員会

1月28日（水）、千種保健福祉センターを会場に今年度3回目の千種地域福祉推進委員会を開催しました。

最初に、推進委員会で初めて企画したカフェ形式の住民学習会「こころあつたかカフェ」（12月6日開催）の振り返りを行いました。

当日のカフェの状況をスライド上映し、アンケートの結果から「今後も取り組んでほしい」という声が多くあり27年度もカフェを行うことになりました。

続いて、支部から版「わく！湧く！ちくさ（第7号）」の紙面内容や取材担当について話し合い、3月の発行に向けた協議ができました。

また、社協への要望や相談として募金

や会費のあり方について意見をいただくなど貴重な時間となりました。

これからもこの委員会が福祉のまちづくりを考える場としての役割を果たせるよう進めていきます。

（千種支部 小原志のぶ）



「みんなええ顔しとってやなあ」（千種保健福祉センター）

ち
くさ

一宮ボランティア連絡協議会 東日本大震災 追悼行事 開催のお知らせ

一宮ボランティア連絡協議会では、東日本大震災の犠牲者の追悼と復興を祈願して、ペットボトルで灯ろうを作り、3月11日(水)午後2時46分に黙とうをささげます。

ぜひご参加ください。



昨年の様子

灯ろうづくり

日時 3月6日(金)
午後1時30分～午後3時30分

会場 一宮保健福祉センター

持ち物 2ℓペットボトル、はさみ

※灯ろうに使用する2ℓのペットボトルを集めています。
みなさんぜひご協力ください。

追悼

日時

3月11日(水)
午後2時30分
～午後3時

会場

一宮保健福祉
センター



△お問合せ：本部

ボランティア センター日誌



点字で名刺も作りました

楽しく点字を打ってみよう

1月29日(木) 神野小学校

1月29日(木)「点訳グループあい」のみなさんが神野小学校4年生28人に点訳を指導しました。

初めての体験に児童は熱心に説明を聞き点字を打ちました。

同会代表の前野真弓さんは「点字が普段の生活の中でいろいろあることを知ってもらい今回は楽しいと感じてもらえたら嬉しいです」と話されます。

このような福祉体験が地域で共に暮らす高齢者や障がい者の方々との交流やお互いに助け合うことの大切さに気づく場になることを期待します。(山崎支部 横山洋子)

～阪神淡路大震災から20年～

1.17メモリアルウォーク2015へ参加

阪神淡路大震災から20年を迎えたこの日、神戸市で行われた1.17メモリアルウォークへ、宍粟から45名が参加しました。



三宮東遊園地では各地から集まった竹筒で作られた1.17の文字に灯りがともり手を合わせ追悼しました。



今年も宍粟から多くのボランティアの協力で約500本の竹筒、約1,200個のろうソクを提供しました。

この取り組みを続けてきたことに対し、阪神淡路大震災「1.17のつどい」実行委員会から感謝状と竹灯ろうをいただきました(写真)。皆さまのご協力に感謝いたします。

今後も社協として震災の経験と教訓を風化させないよう、追悼行事への協力を続けていきます。

(波賀支部 坂本幸子)

あの日を忘れない

～山崎ボランティア連絡会～



山崎ボランティア連絡会が1.17の追悼行事を行い、昨年11月に同会で作ったろうソクに火を灯し「花は咲く」を合唱しました。

同会副会長の神名寿昭^{しんめいひさあき}さんは「はやから20年。6,434人の犠牲者の方々は本当に残念でした。宍粟市からご冥福をお祈りしましょう」と挨拶されました。

あの震災の記憶が風化しないように、今後も同会で思いやりの心と絆をつなぎ続けていきます。

(山崎支部 横山洋子)